

宮村治雄先生の御退職に寄せて

法学部長 遠藤誠治

宮村治雄先生は、二〇〇五年三月に三〇年間奉職された東京都立大学法学部教授を辞して、成蹊大学法学部教授に就任されて以来、二〇一五年三月に退職されるまで一〇年間にわたって法学部および成蹊大学における研究・教育に大きく貢献されました。東京都立大学では大学組織の移行期の大きな困難のなか二年あまり学部長の重責も担われましたが、成蹊大学着任後も学生部長をお務めになるなど、研究・教育のみならず大学行政面でもご活躍くださいました。

宮村先生のお仕事は日本政治思想史・政治思想史全般に幅広く及んでいます。私には先生のお仕事の全貌を、自分の言葉で語る能力がありませんが、研究者としての宮村先生のお仕事は、中江兆民研究、先生御自身の師でもある丸

山眞男や藤田省三、萩原延壽の業績の分析を通じた戦後精神に関する研究、日本の政治思想の展開に関する研究に分けられるのではないかと考えます。それぞれの分野に関して一級のお仕事を展開してこられたことはいうまでもありません。門外漢である私が受ける印象としては、宮村先生 of 思想史研究者としてのお仕事は、緻密かつ周到であるとともに、緊張感に満ちています。

思想が生み出される歴史的文脈をふまえるということは、いわば当然ではあるものの、それ自体がきわめて困難な課題です。先生のお仕事においては、思想が生み出される文脈は平板ではなく常に複数的で立体的なものであるということが浮かび上がってきます。そして、複数の文脈を生きる歴史的存在としての思想家が、自らの生きる社会の現状と歴史を主体的に引き受けつつ、どのような言葉を選び、あるいはどのような言葉を使わず、誰にどのようなインスピレーションを受け、誰にどのような批判的距離を維持しつつ、自らの思想を組み立てていったかが描かれます。その際、その思想家にはどのようなオプションがあったのか、複数のオプションの中でその人物がなぜ特定の選択をしたのかという理由を突き詰める分析が緻密に展開されます。それゆえに、思想史への探求が、ある種のスリリングな感覚を生んでいるように感じます。

こうしたお仕事の特性を表現しているのが「解説」や「解題」ではないかと考えます。『戦後精神の政治学』にはそうした「解説」や「解題」が体系化されて収められています。そこでは、特定の人物や著作とその思想的意義が、立体的に描かれています。あまりにも的確かつわかりやすいために、先生の解説を読むことで解説の対象となっている作品を十分理解してしまっただよな気になってしまうことが、宮村先生のこの種のお仕事にもなう危険かもしれません。

もちろん、宮村先生のお仕事においては、中江兆民や丸山眞男といった思想家の思想の分析が占める部分は大きいものの、もう一つ、政治において用いられる概念が異なる文脈においてどのような色彩や意味合いを帯びていくことになったのかという分析もきわめて興味深いものです。

私としては、こうした探求の蓄積を、研究会における発言や活字などの学術的な場面で私たちに示して下さっただけではなく、一〇号館一二階の教職員食堂で食事をともにしながら、あるいは、先生主催のおいしい日本酒を頂戴する会合などにおいても、ふんだんに提供して下さったことに大きな感謝をお伝えしたいと思います。日常の会話の中で用いられる特定の言葉が持つ歴史的含量や背景に関する疑問や、歴史的な出来事の文脈に関する疑問がある際に、先生の口からは、泉のように豊かな分析があふれ出てくる、という機会は数えきれないくらいありました。その意味では、宮村先生が成蹊大学法学部政治学科に在職された一〇年間に、私たち後進の研究者が受けた知的恩恵（それを薫陶と呼ぶのは失礼だと考えます）は、計り知れないと思っております。また、こうした機会をこれまでほど頻繁には得られないことを、とても残念に感じております。

こうした思想史研究者としてのお仕事の他に、宮村先生が果たされてきた重要なお仕事として言及せずにはいられないのが、後進研究者の育成でした。東京都立大学ご在職中の頃以来、本学に移られてからも、数多くの若い研究者をじっくり時間をかけて育ててこられました。その御指導ぶりの詳細を私は存じませんが、先生がお育てになった研究者の方々が緻密な学問研究を快活に展開しておられる姿に接するにつけても、宮村先生の御指導が先生御自身のお仕事ぶりを反映したものであったということがうかがわれます。

宮村先生は、本年三月をもって専任教員としてはご退職になりましたが、引き続き非常勤講師として「日本政治思

「想史」をご担当くださっています。また、これまでの研究課題をさらに発展させるお仕事にも取り組んでおられると伺っております。法学部とりわけ政治学科は、これからも先生のお仕事から刺激を受け続けていくことになると思います。

今後とも先生がご健康に配慮されて、ますますご活躍されることをお祈り申し上げます。